

21世紀に  
伝えたい

# ちばの魅力

No.33

江戸の情緒を今に残す

矢切の渡し

・松戸市

ゆったりとした川の流れに身をゆだねる矢切の渡し



松戸市側の土手から眺めた矢切の渡し。左の茂みが乗船場。手前の芝生はゴルフ場の

## 江戸川唯一の渡し場って本当？

松戸市下矢切<sup>しもやぎり</sup>と葛飾区柴又を結ぶ矢切の渡しは昔懐かしい渡し船が観光客に人気です。松戸市側の矢切地区一帯は畑地が広がり、全国的にも有名な「矢切ネギ」の産地です。農道を利用した「野菊のこみち」や坂川脇の「四季の道」があります。手漕ぎの木造船で江戸川を100mほど渡れば、近くには映画「男はつらいよ」でおなじみの柴又帝釈天<sup>たいしやくてん</sup>(経栄山題経寺)や葛飾柴又寅さん記念館があります。休日や柴又帝釈天の縁日には渡し場は多くの人でにぎわいます。

矢切の渡しの歴史は古く、1631年(寛永8)の古文書に既に記述が見られます。江戸時代、幕府は江戸城防衛のため大きな川に橋を架けませんでした。このため江戸川にも多くの渡し場ができ、陸の関所と同様に厳しい取り締まりが行われました。明治末

頃の記録では江戸川の渡し場は40か所近くありましたが、現在では矢切の渡しだけが唯一の渡し場となりました。

貴重な渡し場を守っているのが船頭の杉浦正雄さんと勉さん親子です。利用者が減って廃止の危機もありましたが、1983年(昭和58)に日本レコード大賞に輝いた「矢切の渡し」(石本美由紀作詞、船村徹作曲)のヒットで再び注目を集めました。

1996年(平成8)、矢切の渡しは柴又帝釈天<sup>かい</sup>界隈<sup>かい</sup>とともに「残したい“日本の音風景100選”」



江戸川土手の小公園・矢切苑にある「日本の音風景百選」の顕彰碑

に選定されました。環境省が行った音の聞こえる風景(環境)の保全対策事業の一環で、全国738件の応募の中から選ばれました。ゆったりと流れる川面に手漕ぎ船の櫓の音や、春にはヒバリやオオヨシキリ、冬にはユリカモメの鳴き声が響きます。日本の音風景100選を記念した顕彰碑が渡し場から200mほど上流の土手にあります。顕彰碑は渡し場を見たり、周囲の音が聴ける穴が彫られたユニークなものです。

日本の音風景100選には県内ではほかにも樋橋<sup>こぼし</sup>の落水(佐原市)と麻綿原のヒメハル

ゼミ(夷隅郡大多喜町)の2件が選定されています。



柴又帝釈天参道。奥が山門



渡し場を守り続ける杉浦正雄さん(左)と勉さん



「野菊のこみち」周辺に多いネギ畑



- 交通 北総・公団線矢切駅から徒歩約35分
- 運行時間 9:30~16:00(約15分おき)
- 渡船料金 片道 大人(中学生以上)100円  
子ども(2歳以上)50円
- 運行日 3月~11月/毎日 12月~2月/土曜・日曜・祝日 ※荒天の場合は運休
- ★松戸市観光協会 ☎ 047-366-7327
- H・P <http://www.intership.ne.jp/m.kankou>
- ★平成15年帝釈天縁日 8/15、10/14、12/13

## なぜ有名になったの？

「矢切の渡し」の大ヒットから20年がたちますが、100年近く前に発表され、今なお読み継がれている伊藤左千夫の代表的小説『野菊の墓』の舞台となっているのが矢切地区です。旧家の主人公・政夫とその従姉・民子との悲しく美しい物語で、夏目漱石も「名品」と称賛しています。映画化もされ、二人の別れの場面では矢切の渡しも登場します。松戸市下矢切にある西蓮寺に野菊の墓文学碑があります。

ところで民子が好きだった「野菊」は野に咲くキクの総称です。実際の花はカントウヨメナ、ノコンギク、ユウガキクなどが考えられます。いずれの花も白が淡い



西蓮寺にある野菊の墓文学碑



成東町歴史民俗資料館(上)と『野菊の墓』初版本

青紫色で田のあぜや川べりに生える多年草です。

伊藤左千夫の出生地である山武郡成東町にある歴史民俗資料館には、草稿や書簡などの文学資料はもちろん写真や遺品などが展示されています。また同資料館に隣接して左千夫の生家が残されています。



■成東町歴史民俗資料館 ☎ 0475-82-2842  
交通/JR成東駅から徒歩約15分  
開館時間/9:00~16:30 月曜休館  
入館料/一般・学生130円 小・中・高校生80円

## 江戸川はどう利用されているの？

江戸川は生活用水として千葉・東京・埼玉の約760万人の暮らしを支え、農業用水、工業用水としても利用されています。そのほかカヌーやボートなどの水上スポーツ、ジョギングやサイクリング、自然観察などが楽しめる憩いの場となっています。各地の河川敷では恒例の花火大会が開かれます。



川面に映える松戸市花火大会(上)とコスモスまつり(9月下旬/江戸川松戸フラワーライン)

## 江戸川の始まりはどこにある？

江戸川は延長約55km、流域面積約200km<sup>2</sup>の一級河川です。矢切の渡しからさかのぼること約38.2km、茨城県猿島郡五霞町山王地先に利根川と江戸川の分流地点があります。ここから茨城県、埼玉県、東京都、千葉県を下って、東京湾に注いでいます。

昔の江戸川は太日川ふたいがわと呼ばれ、渡良瀬川とつながっていました。江戸時代初期、新しい流路を掘る大規模な工事によって利根川と結ばれ、江戸川と呼ばれるようになりました。その後も改修工事を重ね現在の姿となっています。



江戸川と利根川の分流地点。写真中央は関宿水閘門。

## 船でどんなものを運んだの？

江戸時代、大都市である江戸の町へつながらる江戸川は、物流ルートの大動脈でした。水上交通が発達し、東北や関東各地から年貢米や酒、醤油などの加工品、農水産物などが江戸へと運ばれました。野田の醤油醸造も江戸川の水運によって大いに発展しま

した。物だけでなく人や情報も行き交い、江戸の文化が地方にもたらされました。

矢切の渡しで1997年(平成9)まで使われていた木造船が北総・公団線の矢切駅に展示されています(写真)。長さ約9m、幅は約2mです。



# 夏休み間近！ いっぱい遊ぼう「21世紀の森と広場」

松戸市中央部に残された千駄堀池周辺の自然を守り育てることを目的につくられた自然尊重型の都市公園です。広さは約50.5haで、クヌギ・コナラの雑木林、シイ・カシの照葉樹林、スギ林などで構成されるまとまった斜面林が公園全体を帯状に囲んでいます。自然観察やバーベキューなどが楽しめるほか、博物館や文化ホール施設もあります。



多くの水鳥たちが集まる千駄堀池

## 何して遊ぶ？ <レクリエーションゾーン>

「光と風の広場」には斜面林からの湧き水が流れ、水遊びが楽しめます。お弁当を食べたりウォーキングなど思い思いに利用できるよう遊具はなく、広々とした景観。木もれ陽の森では気軽にバーベキューやキャンプができます(要予約。キャンプは市内在住者のみ)。またパークセンターでは園内の動植物の展示や、さまざまな講座が開かれています。

■パークセンター 開 9:00～16:30 休 月曜



湧き水が流れる「光と風の広場」は広々としていて開放的です

## 生きものたちの楽園 <自然ゾーン>

バードウォッチングなら千駄堀池脇の自然観察舎へ。カワウ、カルガモ、コサギなど多くの

水鳥たちが観察でき、美しい谷津の風景も広がっています。自然生態園は生きもの尊重の考えのもと、人の入園を制限し、定期的に湿地の観察会が開かれています。

■自然観察舎 開 9:00～16:30 休 月曜

## 博物館やホールもあるよ <文化ゾーン>

のどかな昔の農村風景を再現したみどりの里やつどいの広場などがあります。ほかに「森のホール21」(松戸市文化会館)や松戸市立博物館があります。同博物館では旧石器時代から現代までの歴史を展示。ほかにも各種体験教室や講座、歴史・民俗関係のハイビジョン映像の上映なども行われています。

■松戸市立博物館 開 9:30～17:00 休 月曜・第4金曜 ※6月23～30日まで臨時休館

☎047-384-8181 料

一般300円、  
高校・大学生 150円、  
小・中学生 100円



松戸市立博物館



## ..... 21世紀の森と広場 .....

☒ 新京成線八柱駅、またはJR武蔵野線新八柱駅から徒歩約15分

開 9:00～17:00 ただし7月21日～8月20日は18:30まで。11～2月は16:30まで

休 12月30日～1月1日 ☎047-345-8900

H・P <http://www.intership.ne.jp/~mcity/matsudo/hiroba4/>

※ペットを連れての入園はできません

## ★トピックス・まつど★

- 第17回新松戸まつり  
7月19、20日 10:00～21:00  
新松戸中央公園、けやき通りほか
- なし狩り 8月中旬～10月中旬  
市内の観光農園69か所  
品種/幸水、豊水、新高など